

東京五輪・パラリンピック オーストリア共和国のホストタウンに決定

平成32年の東京五輪・パラリンピックの「ホストタウン」に6月14日、安曇野市など47件が2次登録されました。「ホストタウン」は、国が大会に合わせ、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化などを目的に、海外の参加選手と地域住民が交流することなどを計画しているものです。

安曇野市の対象となる相手国は、オーストリア共和国で、本市が同国クラムザツハ町と姉妹都市であることや、明科龍門測公園内の前川カヌースラロームコースが北信越国民体育大会でも利用されていることから、市では同国のカヌー競技出場選手を招くことを想定しホストタウン申請をしていました。

今後市では、大会に合わせて、オリンピック出場選手等の前川での公開競技や、一般向けのカヌー教室などの開催など、具体的な交流内容の検討を進め、カヌー競技の普及と国際交流を推進していく予定です。

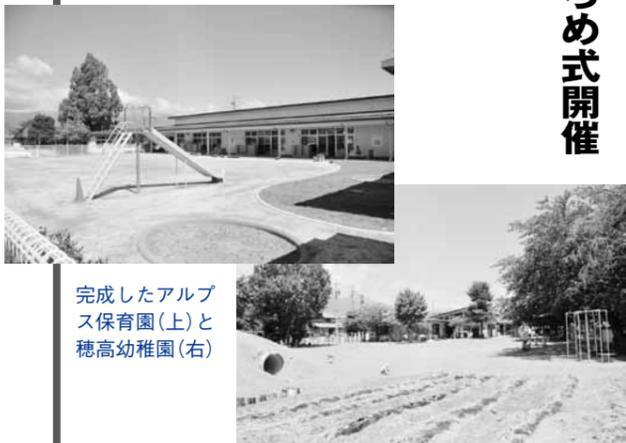


前川でのカヌー競技の様子

アルプス保育園・穂高幼稚園がしゅん工 おひろめ式開催

アルプス保育園の移転新築工事と穂高幼稚園の大規模改修工事が完了し6月2日、おひろめ式を各園で行いました。式典で宮澤市長は「子どもたちが伸び伸びと歓声の鳴り響く園舎になつてほしい」とあいさつしました。

市内唯一の市立幼稚園である穂高幼稚園は、現在の園舎が昭和48年に完成。老朽化した現在の園舎の長寿命化を図るため、耐震補強と共に施設全体の改修工事を進めてきました。事業費は約3億6千万円で、耐震補強と合わせ、絵本などの図書コーナーや子育て相談に対応できる会議室などを設けました。



完成したアルプス保育園(上)と穂高幼稚園(右)

体の老朽化や、昨今の保育への多様な要望にこたえるには手狭な施設になっていました。新園舎は旧園舎の東側に新築し、鉄骨平屋建て延べ床面積1250平方メートル、敷地面積は約7130平方メートルで、未満児保育や長時間保育などに対応します。事業費は、約4億6千万円です。

行政改革推進委員会 公立保育園の運営に民間の力活用を答申

市行政改革推進委員会（降旗富雄会長）は、昨年10月に「公立保育園の民営化に関する基本的な考え方について」諮問を受け、9回に渡る審議により意見をまとめ、6月30日に市長へ答申しました。

今回の答申では、多様な保育ニーズへの対応、行財政改革の観点から保育園運営へ民間活力を導入することにより、質の高い保育行政の実践が期待できるとことや、保育士不足に対応するための「(仮称)保育士人材センター」の設置が提案されたほか、民営化の手法として民設民営ではなく、運営に指定管理者制度を導入して民間に委ねるといった意見が添えられています。

宮澤市長は「多様化する要望の中で保育園に求められていることも変化しています。委員会の意見を基に、官民それぞれの長所を生かし、安心して子どもが預けられる施設となるよう答申を尊重していきたい」とあいさつしました。

市では今後、答申の内容に基づき、民営化に関する基本的な方針を決定する予定です。



宮澤市長に答申する降旗会長（中央）

熊本地震被災地支援 熊本県益城町に職員を派遣

熊本地震による被災地支援派遣職員の出発式を6月17日、市役所で行いました。宮澤市長は「被災地のため、市職員として期待に応えられるよう、力を十分発揮してほしい」と職員を激励しました。今回の職員の派遣は、全国市長会などを通じ被災市町村からの要請に基づき行うものです。派遣された職員は6



被災家屋を調査する職員（左）

月19日から7月16日まで、2人一組3回に分けて、述べ6人が最も被害が大きかった熊本県益城町へ派遣されました。派遣先では、被災した家屋の「り災証明書」の発行に必要な家屋被害認定調査業務のうち、より詳細な調査にあたる「2次調査」に携わりました。

今後市では、熊本市にも職員



益城町の様子

を派遣し、7月14日から8月23日まで6人が家屋被害認定調査業務にあたる予定です。